

子どもの読書環境の充実、読書習慣の定着のために

はじめに

情報メディアが広く浸透している現在、子どもの読書以外の活動への関心が高まり、相対的に読書への関心度合いが低下していると言われています。

しかしながら、読書をすることは言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにしていく上で重要です。本資料を通じて、家庭教育ナビゲーターや保護者の皆様に改めて「読書の大切さ」や「読書習慣の定着」、「子どもの読書環境の充実」などについての理解を深めていただきたいと思います。

1 「読書」の大切さ

読書は、多くの言葉や表現に触れることで、自分の気持ちや考えを人に伝える力や新しいものを考えたり作り出したりする力を育むなど、全ての学びの基盤であり、子どもの健やかな成長に必要です。

読書により得られるもの・期待されるもの

新しい知識や情報を得られる。

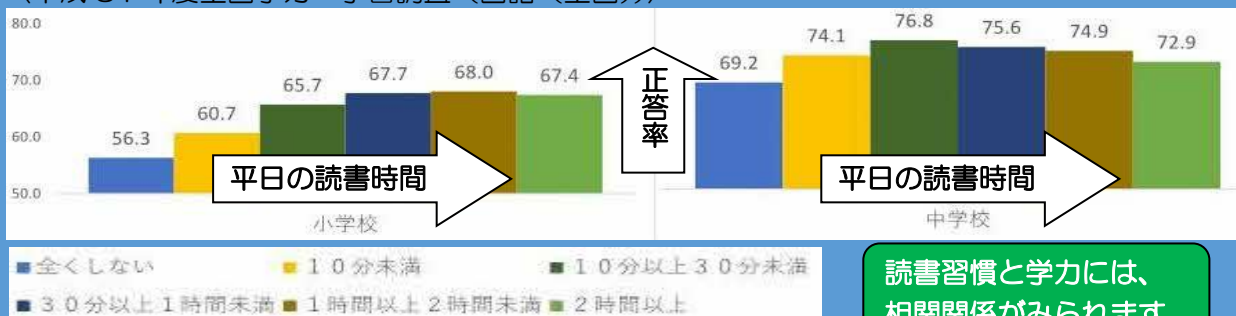
豊かなことばや表現を学べる。

感動を味わうことができる。

感性が豊かになる。

気持ちを伝え、新しいものを考える等、学びの基盤となる力が養われる。

〈平成31年度全国学力・学習調査（国語（全国））〉



読書を通じて、期待されるもの

- 人生で必要とされる力を身に付けること
- 確かな学力や豊かな人間性を育むこと

2 北海道の子どもたちの読書習慣・読書環境の現状

	小学校	中学校
①平日全く読書をしない子ども（H31） 全国学力・学習状況調査（文部科学省） ※札幌市を含む。	21.4%	33.8%
②学校図書館図書標準*1 を達成している学校（H27末） 学校図書館現状調査（文部科学省） ※札幌市を含む。	35.2%	38.0%
③学校司書*2 を配置している学校（R1） 学校図書館現状調査（北海道教育委員会） ※札幌市を含まない	28.8%	17.9%

- ◆読書習慣が身につけていない子どもが小学校で2割、中学校で3割程度います。
- ◆蔵書が十分ではなかったり、専門スタッフのいない学校図書館があります。

子どもの成長や学習する環境を整えるために、次のことが必要と考えられます。

- 読書のきっかけづくりや読書習慣の定着化
- 学校図書館の蔵書の充実、学校司書の配置促進

3 子どもの読書環境の充実によりもたらされる効果

児童生徒の読書意欲喚起に向けて
利用しやすくなる学校図書館の実現に向けて

家庭での読書のきっかけ、習慣づくり

「家読（うちどく）」*3など、日頃から家庭で読書に親しむことにより、

- ①家族でのコミュニケーションが活発になります。
- ②伝える力や新しいものを考える力を育むなど、子どもの成長につながります。

学校図書館の蔵書の充実

様々な難易度や内容の本を豊富に揃えることにより、

- ①興味・関心に応える本との出会いの機会が増えます。
- ②豊富な資料を使い、授業内容を豊かにすることにつながります。

学校司書の配置

学校司書を配置すると、児童生徒が次のような本との出会い等が期待されます。

- ①学校司書の橋渡しによる読みたい本、思いがけない本との出会い
- ②学習内容等に応じた図書展示により、必要な図書とのタイムリーな出会い
- ③探しやすい配慮・工夫された配置により、利用しやすい図書館の実現

子どもの読書環境の充実は、学力向上や、豊かな人間性の育成につながります。

4 子どもの読書環境の充実のために家庭教育ナビゲーターに期待される役割

家庭での取組

- ①保護者自ら、読書を楽しみ、子どもに読書をすすめてみる。
- ②「家読（うちどく）」に取り組んでみる。（別紙1参照）

（取組の例）

- ・子どもが親しみやすい本をすすめてみる。
- ・読んだ本についての感想を家族で話し合ってみる。
- ・家族で日常生活習慣を見直しながら、読書の時間を設定してみる。

保護者と学校との話し合いと協力

- ①どのような学校図書館としたいのか学校に伝えてみる
- ②学校図書館の環境改善のために協力できることはないか話してみる

子どもの豊かな読書環境の実現のためにお力添えいただくことを期待しています。

【用語解説】

- *1 学校図書館図書標準：学校図書館で図書の整備目標となる冊数
- *2 学校司書：学校図書館の運営等を行い、児童生徒と本をつなぐ役割を果たす職員
- *3 家読（うちどく）：家庭での読書を通して、家族でのコミュニケーションを図る取組